

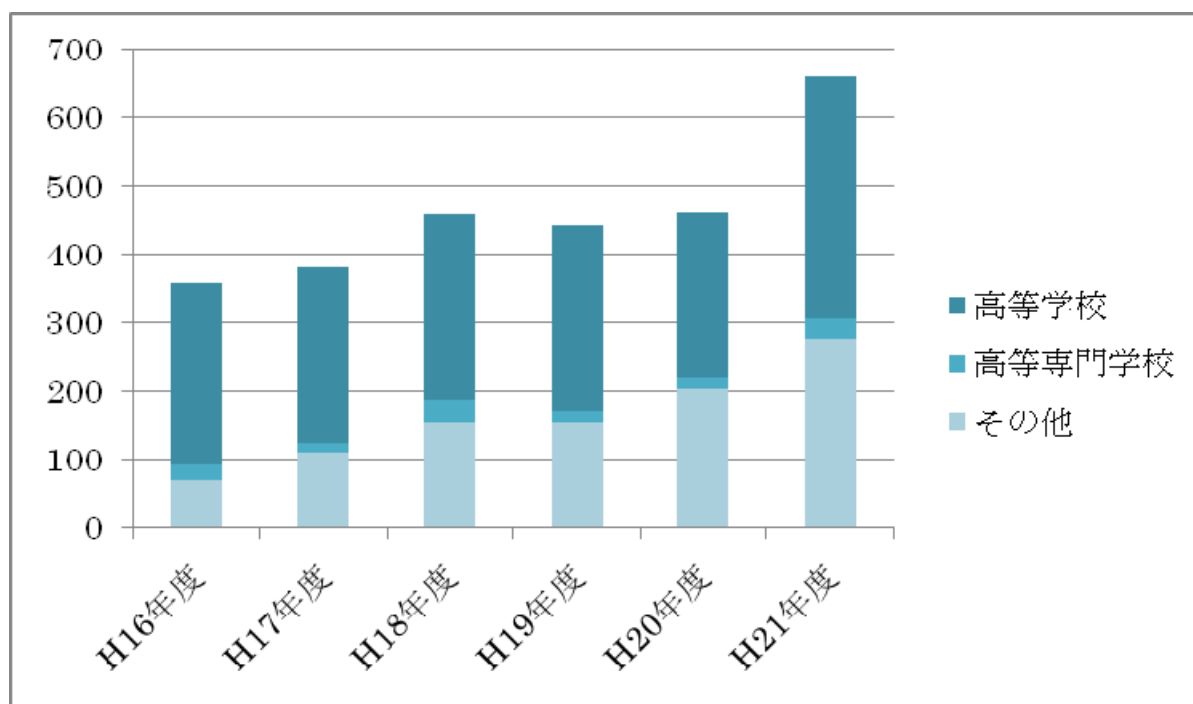
平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
長岡技術科学大学

目 次

資料1-1-1	オープンキャンパス参加者推移	1
資料1-1-2	留学生比率	2
資料1-1-3	留学生の日本語能力に応じた対応例	3
資料1-1-4	分析計測センター利用案内	4
資料1-1-5	リアルタイムFD実施状況	6
資料1-1-6	高専－技大FDフォーラム	7
資料1-1-7	インターンシップシラバス(抜粋)	8
資料2-1-1	メタン高度利用技術センター活動実績(2009)	9
資料2-1-2	学内無線LANシステム アクセスポイントマップ	10
資料2-1-3	新潟日報記事	11
資料2-1-4	公開講座等の開催状況, 地元機関との連携事業状況	12
資料2-1-5	産官学のための新潟県大学等ネットワーク連絡会	13
資料2-1-6	メキシコ・デイ in 長岡	14
資料2-1-7	海外オフィスとコーディネーター業務	15

別添資料 1 - 1 - 1 オープンキャンパス参加者推移



	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
高等学校	267	257	270	273	241	355
高等専門学校	21	13	34	15	17	31
その他	70	111	154	154	203	276
計	358	381	458	442	461	662

資料 1 - 1 - 2 留学生比率

全学生に対する留学生比率

基準日	留学生数	全学生数	留学生比率
平成 20 年 1 月 1 日	224	2,158	10.38%
平成 21 年 1 月 1 日	233	2,320	10.04%
平成 22 年 1 月 1 日	285	2,494	11.42%

【参考】

学術交流協定機関数

基準日	大学間交流	学部・部局間交流	研究室間交流	合計
平成 20 年 1 月 1 日	61	6	1	68
平成 21 年 1 月 1 日	67	5	3	75
平成 22 年 1 月 1 日	70	8	6	84

ツィニング・プログラム学生の入学者数（第 3 学年編入学）

入学年度	ベトナム	メキシコ	中国	小計	マレーシア	合計
平成 20 年度	3	—	—	3	2	5
平成 21 年度	10	—	—	10	4	14
平成 22 年度	17	4	10	31	3	34

平成 22 年度は合格者数。また、中国は平成 22 年 9 月入学予定である。

(参考)

ベトナム

- ・ハノイ工科大学（平成 17 年度～）
- ・ホーチミン市工科大学（平成 21 年度～）
- ・ダナン大学（平成 21 年度～）

メキシコ

- ・モンテレイ大学（平成 22 年度～）
- ・ヌエボレオン大学（平成 22 年度～）

中国

- ・鄭州大学（平成 22 年度～）

マレーシア

- ・日本国際教育大学連合コンソーシアムに参加（平成 17 年度～）

資料 1 - 1 - 3 留学生の日本語能力に応じた対応例

JENESYS プログラム日本語発表会の開催 (大学 HP から抜粋)

平成 21 年 12 月 24 日 (木) に本学第一会議室において、JENESYS プログラム「グリーンテクノロジー確立を目指すインターンシップ活用高度人材育成」の留学生 17 名が日本語発表会を行いました。

本発表会は、平成 21 年度日本学生支援機構「21 世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS) に基づくアセアン及び東アジア諸国等を対象とした学生交流支援事業」で 9 月から受入れた留学生が、3 ヶ月間の日本語研修を修了し、日本語学習の成果を発表したものです。

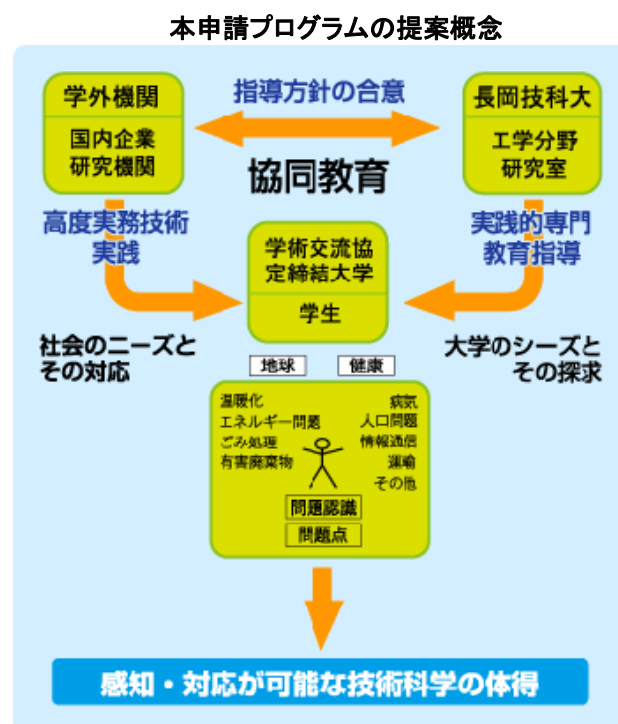
留学生は、英語で 3 分間自分の研究内容を発表した後、日本語で 1 分間のスピーチを行いました。ほとんど日本語学習経験がなかった留学生ですが、日本語の上達ぶりに、教員及びチューターから盛んな拍手が送られました。



【参考】

21 世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS) に基づくアセアン及び東アジア諸国等を対象とした学生交流支援事業～アセアン事務局受託事業～

本事業は、21 世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS) の一環として、アセアン及び他の東アジア首脳会議 (EAS) 参加国の留学生が、我が国の大学が提供するプログラムへの参加を通じて環境技術や環境政策を体系的に学び、我が国の学生と積極的に交流する機会を提供することにより、有益かつ新たな人的ネットワークを構築するとともに、将来、母国や環境関連分野におけるリーダーを育成することを目的とします。さらに、我が国の大学が優秀な留学生を受け入れることを通じて、我が国とアセアン及び東アジア諸国との大学間の教育研究交流を促進し、相互の国際競争力を高めるとともに、東アジア全体の未来の発展に資することを目的とします。



資料1-1-4 分析計測センター利用案内

分析計測センターの時間外利用について

* 時間外利用登録 *

「時間外利用者登録申請書」を記入し、センター事務室へ提出して下さい。

ただし、下記に該当する者に限ります。

- ・ インストラクター登録後、当該装置を3回以上利用し、且つ前回利用日が2ヶ月以内の者で、当該機器の操作方法に習熟し、機器の正しい方法と利用に伴う危険性を熟知している者
(登録後、2ヶ月以上空いた場合は、時間内に再度利用し機器取扱手順を再確認してから利用してください。)

* 予約 *

- ・ 予約開始日は時間内利用と同じです。ただし、時間内の予約が出来ない場合に限ります。
- ・ 利用日前日午後5時までに予約表に記入して下さい(予約は当月分のみ)。
- ・ 当日に時間外利用を希望する場合は、15時までにセンター職員へ申し出て下さい。
- ・ **予約なしの無断使用は禁止です。**

* 予約の取り消し *

- ・ 予約日の前日5時までに予約表(およびホワイトボード)から予約を取り消して下さい。
- ・ 当日にキャンセルする場合は、センター職員まで連絡して下さい。
- ・ 無断キャンセルは課金対象になりますので、ご注意ください。

* 利用方法 *

- ・ 利用希望日の15時までに「時間外利用願」をセンター職員へ提出し鍵を受け取って下さい。
必ず利用申込者本人が来てください。本人でない場合、鍵の貸与はできません。
(**学生が利用する場合には、緊急時には指導教員に連絡して下さい。**)
- ・ 利用申込書に必要事項を記入し、センター入口横のホワイトボードに貼って下さい。
- ・ 利用中は「時間外利用願」のコピーを機器室内の所定の場所に貼って下さい。
(利用願のコピーは鍵と一緒にお渡しします。忘れずにお持ち下さい。)
- ・ 利用後は装置の状態と点検項目を確認し利用申込書に記入、所定の場所へ提出して下さい。
また、各装置の使用記録ノートも忘れずに記入して下さい。
- ・ 鍵を返却箱に入れ、「鍵貸出簿」に記入してから帰って下さい。
(不在にする場合は短時間であっても、必ず施錠して下さい。また、鍵は返却するまで責任をもって管理して下さい。)

分析計測センター

*** 利用時注意事項 ***

- ・ 安全確保のため、インストラクターを含む2人以上の在室をお願いします。
- ・ 操作は利用申込者本人が行って下さい。
(未登録者でもインストラクター監督下での操作練習は可。ただし、インストラクター名での利用申込みをお願いします。)
- ・ 利用者や機器に害を及ぼす恐れのある操作は行わないで下さい。
- ・ センター職員は、時間外における個別対応は致しかねます。

*** その他 ***

- ・ 禁煙
- ・ 飲食禁止
- ・ 土足厳禁(センター入口でスリッパに履き替える)
- ・ 整理整頓
- ・ 居眠りしないようにして下さい。
- ・ 持ち込んだ試料や物品、貴重品等は利用者が責任をもって管理、持ち帰って下さい。
- ・ 規則に違反した場合、インストラクター資格の取り消し、またはセンターの利用を一時停止させることがあります。
- ・ 機器損傷の内容によっては、全部または一部弁償責任を負ってまいります
- ・ 年2回、利用時間に応じた料金を算出し、各研究室の予算より振り替えます

*** 緊急時連絡先 ***

機器の異常等

→利用を中止し、個々の機器に応じた処置を行う。指導教員に連絡し、指示を仰いで下さい。

「故障等報告書」に詳細を記入し利用申込書と一緒に所定の場所へ提出して下さい。

停電・雨漏りなど建物の不具合

→エネルギーセンターへ連絡。内線2233 または 0258-47-9290

事件、事故、災害等

→警察署または消防署へ通報するとともに、内線9999 または 0258-47-9999

資料 1 - 1 - 5 リアルタイム FD 実施状況

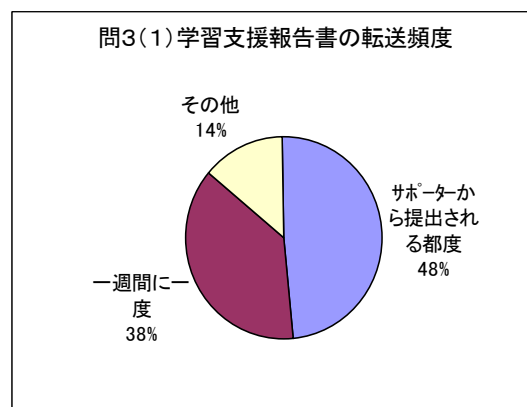
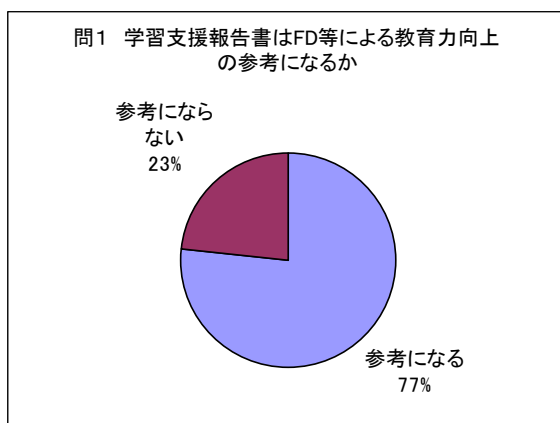
平成 18 年度から「学習サポーター制度」を導入し、1 人の大学院生が 3 人の学部学生を学習支援している。毎回の支援終了後は学習支援報告書を実施責任者と学習サポーター担当教員にメールで送信していたが、平成 19 年度より WEB 上で報告を可能にした。また、平成 21 年度には報告書中の「支援内容」「特につまづいていた点」「学生の取組の様子や気がついたこと」を支援した科目の担当教員にメールで転送するシステム（リアルタイム FD）を構築した。学習支援報告書の内容が FD に反映されることとなる。

平成 21 年度 2 学期のリアルタイム FD 実施状況**【サポート全科目】**

基礎情報処理演習Ⅱ、機械工作法、計測制御、確率・統計、基礎情報処理演習Ⅰ、波動・振動、機械工学基礎実験、基礎情報処理演習、電気機器工学、電子回路、電力工学、制御工学基礎、電気工学基礎演習、電気磁気学及び演習Ⅰ、基礎化学熱力学、基礎物理化学演習、基礎有機化学、基礎有機化学演習、物質・材料工学基礎実験Ⅱ、化学 2、応用力学Ⅱ、建設工学実験Ⅰ、連続体の力学の基礎、土質力学、数学 2A、水理学Ⅰ、微生物学、生物機能工学基礎実験Ⅱ、生物学Ⅰ、経営情報システム工学基礎実験、数学 2A、工業基礎数学Ⅱ、数学 2B、物理学Ⅱ、数学演習Ⅱ、英語 12A、英語科目全般（※TOEIC の勉強法）、英語 22A、英語 22B、システム思考論、情報検索論、環境学概論

【リアルタイム FD 対象教員】 50 名

【リアルタイム FD に関する教員アンケート集計結果】 回答 30 名

**【参考になる点】**

- ・学生がどこでつまづいているのかを知る手がかりになる。
- ・リアルタイムで問題点がわかるため、すぐに対応できる。
- ・「授業中に繰り返し教えている基本的な部分をサポーターに聞いている」ということが分かりました。
- ・直接教員に聞きづらいような内容についても、どこで困っているかわかるときがあるので、授業改善に非常に参考になる。

【意見・感想】

- ・情報提供をしていただいて授業の参考にできる点では大変結構なことで、同じような内容のサポートを受ける学生が出てくれば授業全体の改善を考えることになると思う。
- ・授業改善に役立つので、是非継続してほしい。
- ・このように、教育業務の省力化、効率化に貢献するシステムは大変結構と思います。

資料 1 - 1 - 6 高専-技大 FD フォーラム

【高専-技大 FD フォーラムプログラム】

平成 20 年度

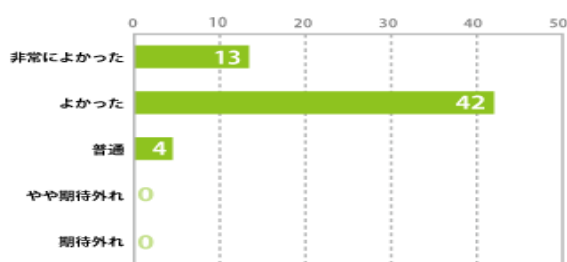
「開会挨拶」	小島 陽（長岡技術科学大学長）、木谷 雅人（国立高等専門学校機構 理事）
「FDネットワークの現在と未来」	小田 隆治（山形大学 高等教育研究企画センター教授）
「米国の大学における ICT 活用とFD」	苑 復傑（メディア教育開発センター 教授）
「豊橋技大におけるFDの現状について」	青木 克之（豊橋技術科学大学 教授）
「長岡技大におけるFDの現状について」	矢鍋 重夫（長岡技術科学大学 教授）
「グループ情報交換会」（小グループで、FDの現状について情報交換、グループ毎に報告）	
「閉会挨拶」	丸山 久一（長岡技術科学大学 理事・副学長）

平成 21 年度

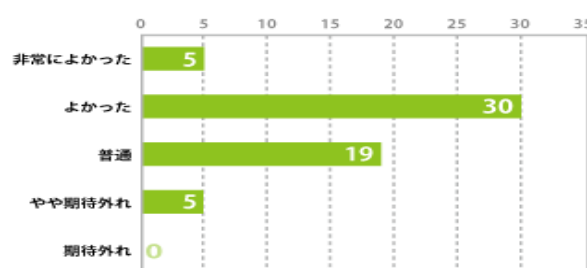
「開会挨拶」	榊佳之（豊橋技術科学大学長）、木谷雅人（国立高等専門学校機構理事）
「高専・技科大における教育の連続化に係る一考察-中期目標・中期計画からの展望と課題-」	市坪誠（国立高等専門学校機構教授）
「高専・技科大における、FD活動の連続化について」	福澤康（長岡技術科学大学教授）
「高専・技科大技術者教育連続化プロジェクトの活動について」	青木伸一（豊橋技術科学大学教授）
「高専・技科大における教育の連続化に係る一考察-高専女子卒業生の実態からの展望と課題-」	内田由理子（香川高等専門学校准教授）
「高専・技科大における教育の連続化に係る一考察 -大学・高専のエンジニアリングデザイン教育の実態からの展望と課題-」	阿部孝弘（福井工業高等専門学校教授）
「情報交換会（昼食兼ねる）」グループ別の情報交換・討議	「グループ毎に報告」
「総括」「閉会挨拶」	神野清勝（豊橋技術科学大学理事・副学長）

【平成20年度高専-技大FDフォーラム参加者アンケート結果】

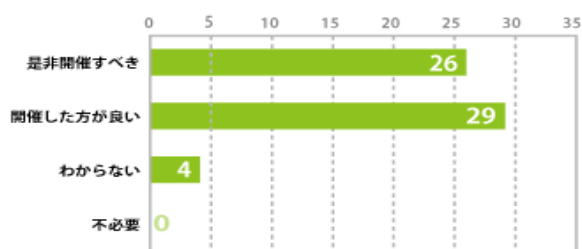
① 今回のフォーラムの内容についての感想



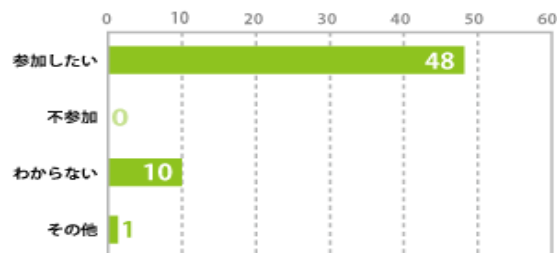
② 今回のフォーラムの運営方法についての感想



③ 次年度以降のフォーラムの開催について



④ 次年度以降のフォーラムへの参加について



資料 1 - 1 - 7 インターンシップシラバス (抜粋)

【科目名】 インターンシップ 1 (平成 21 年度新設科目)

【授業科目英文名】 Internship I

【授業形態】 実習 【単位数】 4.0 【開講学期】 通年

【授業目的および達成目標】

Purpose & Goal:

- (1) To obtain practical experience of engineering and practical engineering skill
- (2) To learn Japanese style working and production systems
- (3) To find purposes for further study
- (4) To know importance of engineer's ethic and safety

【成績の評価方法と評価項目】

Evaluation:

Based on

- (1) Monthly report
- (2) Presentation at the end of training
- (3) Evaluation sheet from company

【留意事項】

Term of the internship I is less than three months but more than two months.

《参考》平成 21 年度受講学生数 4 名 (セインズマレーシア大学からの特別聴講学生)

【科目名】 インターンシップ 2 (平成 21 年度新設科目)

【授業科目英文名】 Internship

【授業形態】 実習 【単位数】 8.0 【開講学期】 通年

【授業目的および達成目標】 Internship I と同じ

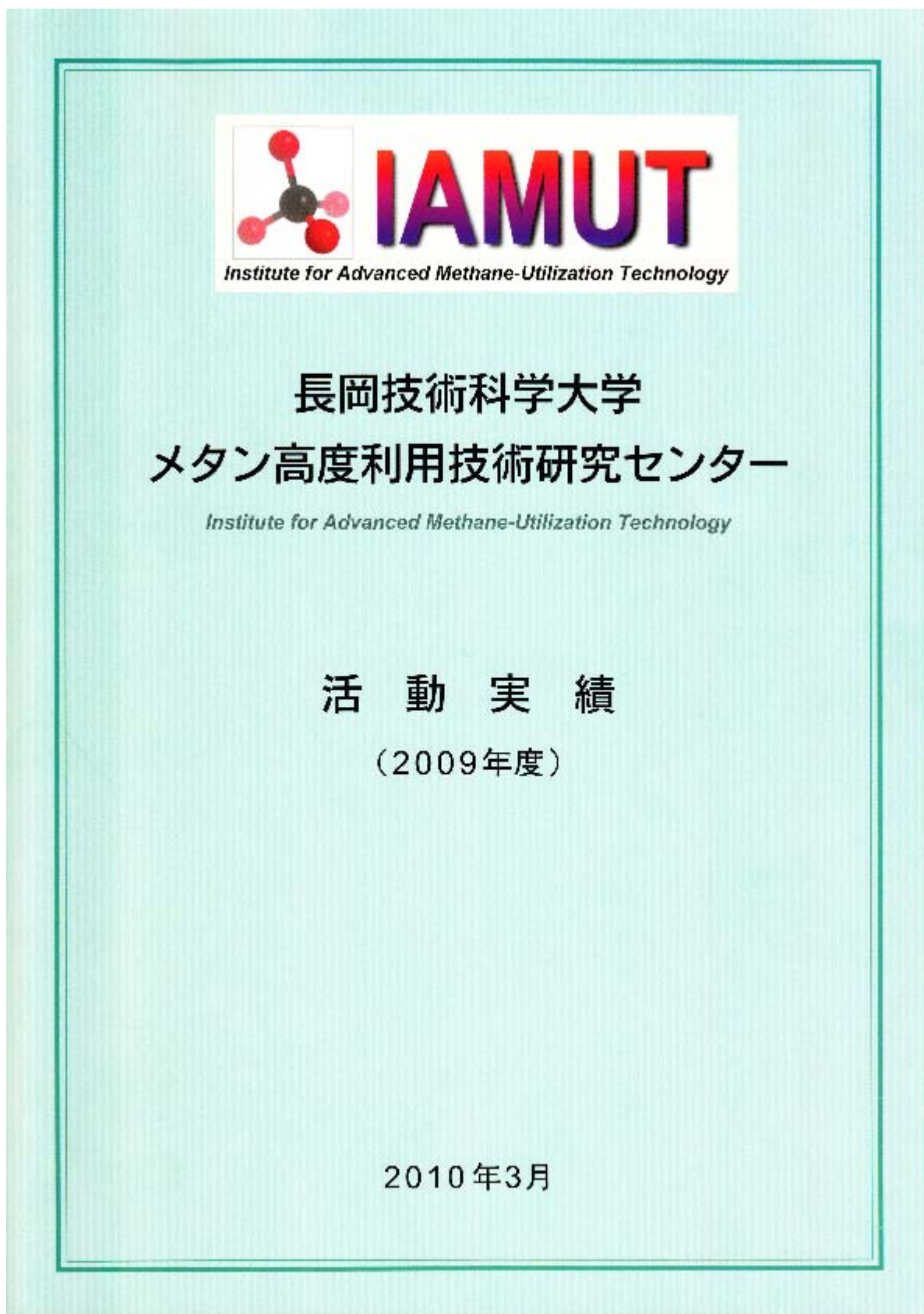
【成績の評価方法と評価項目】 Internship I と同じ

【留意事項】

Term of the internship II is more than three months. Term of the internship I is less than three months but more than two months.

《参考》平成 21 年度受講学生数 0 名

資料 2-1-1 メタン高度利用技術センター活動実績 (2009)



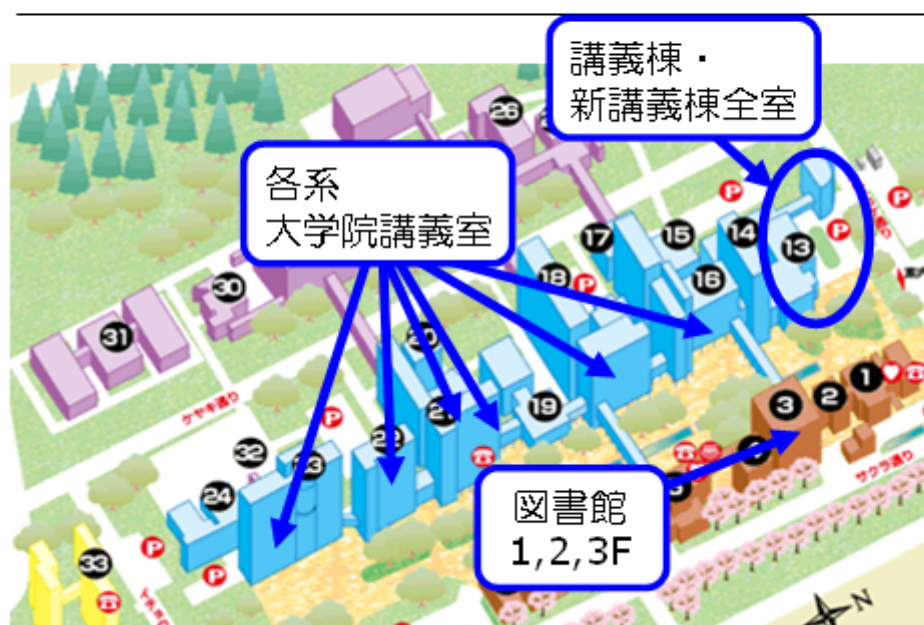
資料 2 - 1 - 2 学内無線 LAN システム アクセスポイントマップ

学内無線 LAN システム アクセスポイントマップ

下記はセンターが係わって運用されている無線 LAN のアクセスポイント設置箇所および、設置予定場所です。



学内無線LAN(認証あり) MAP



平成 21 年度導入準備中の新システムでは、学内の広範囲な場所での接続が可能となることから、ユーザ毎の認証を経た上でアクセスできるシステムを準備しています。

- 利用開始時期は、定まっておりません→H21/12 末より実験運用を開始致しました。
- ユーザ認証は、学生については「教育・研究統合計算機システムのアカウト」を利用致します。
- 認証システムの制約により、ローミング(アクセスポイント間の認証なしの移動)は、できません。利用場所を変更した場合は、再度、認証する必要があります。

以上

別添資料 2 - 1 - 3 新潟日報記事

この部分は著作権の関係で掲載
できません。

資料 2 - 1 - 4 公開講座等の開催状況，地元機関との連携事業状況

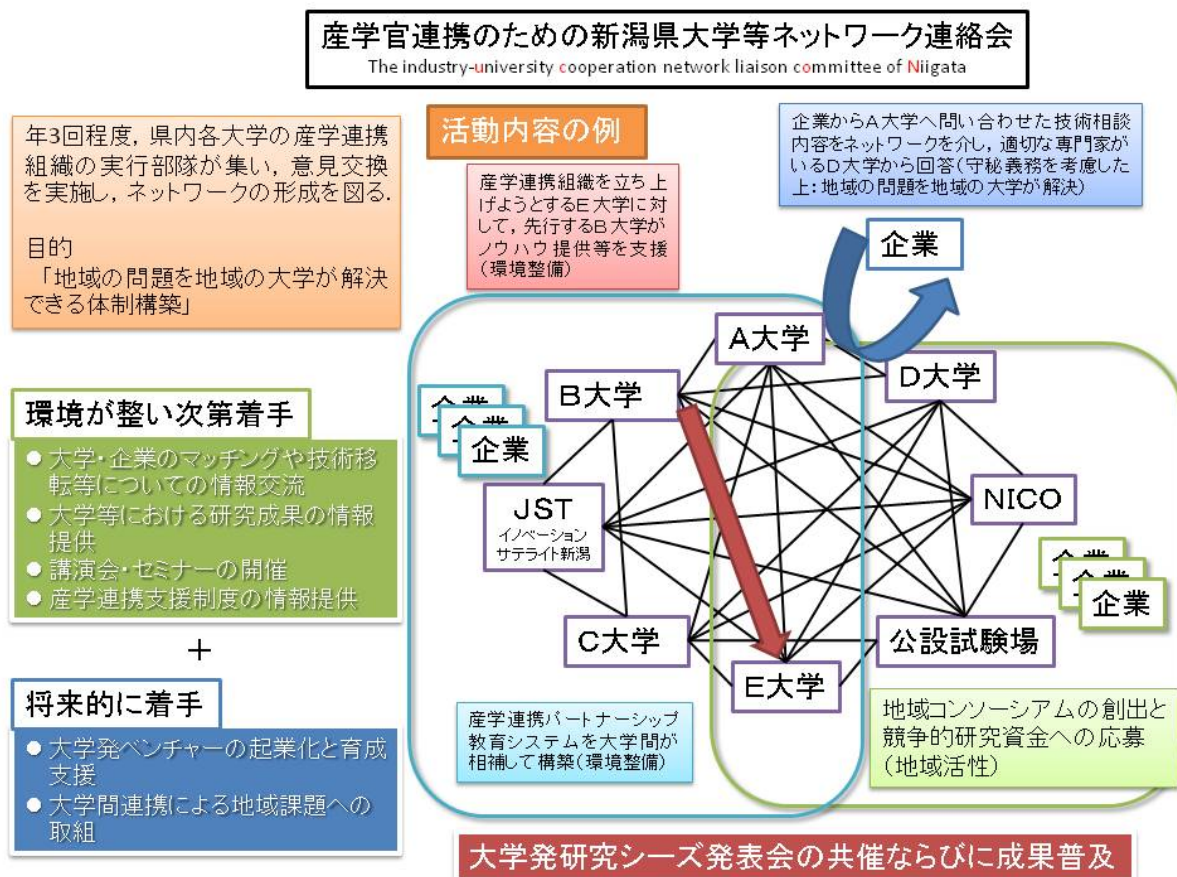
資料 公開講座等の開催状況

開催年度	公開講座		技術開発懇談会		高度技術者研修	
	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数
H16年度	2回	52人	6回	58人	2回	13人
H17年度	3回	61人	6回	68人	2回	20人
H18年度	4回	156人	6回	107人	2回	13人
H19年度	4回	180人	6回	112人	1回	17人
H20年度	5回	104人	6回	120人	1回	16人
H21年度	10回	189人	6回	88人	1回	23人

資料 地元機関との連携事業状況

連携事業（連携機関）	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
ながおか市民大学 （長岡市と連携）	講座 2	講座 3	講座 3	講座 3	講座 3	講座 3
いきいき県民カレッジ （新潟県）	講座 2	講座 1	講座 4	講座 8	講座 5	講座 5
エル・ネット「オープンカレッジ」 （文部科学省）	—	—	—	テーマ 7	—	—
長岡モノづくりアカデミー 〔(財)にいがた産業創造機構， 長岡工業高等専門学校，長岡市等〕	—	人 18	人 24	人 25	人 22	人 26

資料 2 - 1 - 5 産官学連携のための新潟県大学等ネットワーク連絡会



資料 2-1-6 メキシコ・デイ in 長岡

メキシコ・デイ in 長岡の開催 (大学 HP からの抜粋)

7月20日(月・祝)に、本学マルチメディアシステムセンター及びセコムホールを会場に、「日本メキシコ交流400周年事業」のひとつとして認定された「メキシコ・デイ in 長岡」(共催・長岡市)を開催しました。ミゲル・ルイス・カバーニャス駐日メキシコ大使、森民夫長岡市長及び大勢の市民の方々に来学いただき、メキシコのヌエボレオン大学及びモンテレイ大学の留学生・教員、本学教職員・学生が参加しました。第一部では日本・メキシコ文化交流として、本学の丸山久一理事・副学長、ミゲル・ルイス・カバーニャス大使、森市長の挨拶を始めとして、ツイニング・プログラム及び日墨米三国協働プログラムの概要の紹介、ヌエボレオン大学カルロス教授、モンテレイ大学サルバドル教授のスピーチの後、メキシコ人留学生から日本語でのショートスピーチ、海外実務訓練でメキシコに行った本学学生からスペイン語での体験談の発表がありました。第二部の親睦・交流会には130人以上の参加者がありました。本学博士課程学生、特別聴講学生として学んでいるメキシコ人留学生による日本留学体験談の発表、日本とメキシコ両国の文化の紹介がありました。会場では、メキシコ料理と地元長岡の郷土料理を味わいながら、本学学生サークルによる悠久太鼓の演奏、実戦空手の演武、茶道部のお茶席が披露されました。続いて、メキシコ人学生によるくす玉割りとスイカ割りを合わせたような遊び「ピニャータ」の実演があり、メキシコ風ビンゴゲーム「ロツテリア」も紹介されました。日本とメキシコの文化を知る良い機会となりました。

(参考)

日本メキシコ青年交流週間in長岡2009メキシコツイニング・プログラム学生夏期研修実施概要

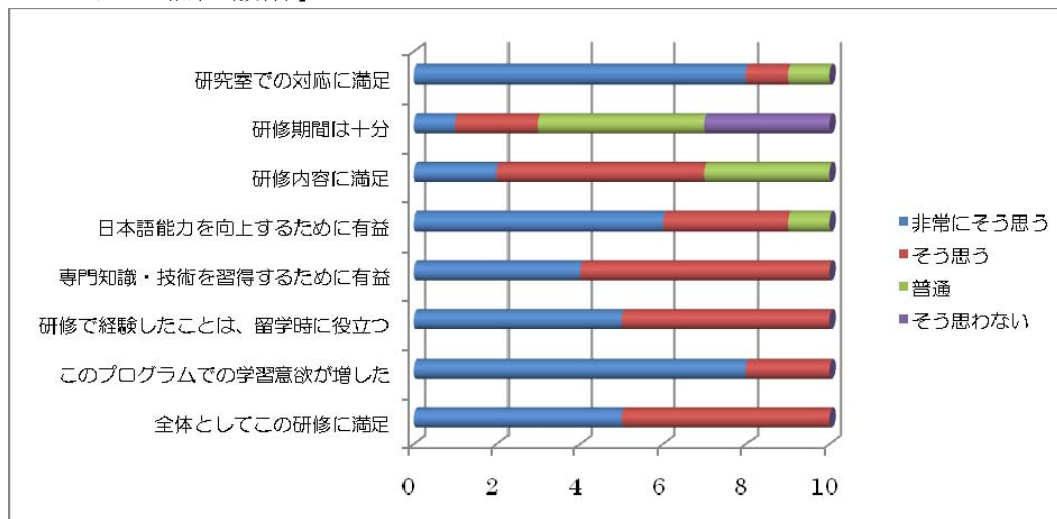
実施期間：平成 21 年 7 月 12 日 (日) ～平成 21 年 7 月 24 日 (金)

参加学生：メキシコ・ヌエボレオン大学より 3 名 (引率教員：1 名)

メキシコ・モンテレイ大学より 7 名 (引率教員：1 名)

実施内容：関連授業の体験受講、大学院学生の研究補助、日本語授業、学内外の見学、イベント「メキシコ・デイ in 長岡」の開催準備など

【参加学生のアンケート結果 (抜粋)】



資料 2 - 1 - 7 海外オフィスとコーディネーター業務

○海外拠点の取組事例について（平成 21 年 6 月：国大協アンケート調査回答より抜粋）

2. 海外拠点名

長岡技術科学大学ハノイオフィス（ハノイ工科大学内）
 長岡技術科学大学モンテレイオフィス（モンテレイ大学内）
 長岡技術科学大学モンテレイオフィス（ヌエボレオン大学内）
 長岡技術科学大学グアナファトオフィス（グアナファト大学内）

3. 「2.」の海外拠点における機能

現地の教育・研究事情に関する情報収集
 機関の海外広報
 現地の高等教育・研究機関との連携強化

4. 設置国・地域・都市名

ベトナム（ハノイ）、メキシコ（モンテレイ）、メキシコ（グアナファト）

5. 施設の設置形態について（専有（借用）、他機関（外国の大学等を含む。）との共用）

学術交流協定機関内で、専有スペースを確保

6. 当該拠点における取組・活動内容

ツィニング・プログラムの前半教育（日本語教育）の提供、ツィニング・プログラム学生等の募集活動等

7. 当該国からの留学生について

（学生交流の状況（受入・派遣数）、学部・大学院の別、短期・長期の別等）

ベトナム：短期（受入 0 人、派遣 3 人（学部）、長期（受入 8 人（学部）、28 人（大学院）、派遣 0 人）

メキシコ：短期（受入 3 人（学部）、1 人（大学院）、派遣 4 人（学部）、長期（受入 1 人（大学院）、派遣 0 人）

9. 職員について（人数、現地採用・日本から派遣などの状況、役職、業務内容等）

ベトナム：2 人（日本から業務委嘱での派遣、業務内容は日本語教育及び国際連携教育コーディネーター業務）

メキシコ：5 人（日本から業務委嘱での派遣、業務内容は日本語教育及び国際連携教育コーディネーター業務又はプログラムコーディネーター業務）